

鳥取県西部地区

医療連携ネットワーク

『おしどりネット』

七月上旬スタート



おしどりネットの概要

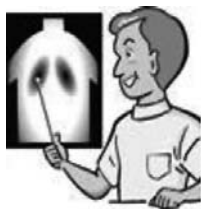
おしどりネットとは、医療の質と安全性の確保のためにITを活用し詳細な医療情報の共有化を行い、鳥取大学医学部附属病院（以下、大学病院）と鳥取県西部地区の医療機関を接続して、医療機関の間の連携をスムーズに行うためのものです。七月上旬より鳥取大学医学部附属病院と西伯病院との間でシステムを運用し、順調に稼動すれば鳥取県西部地区での地域連携に活用する計画です。

おしどりネットの目的

このシステムに同意された患者さまのプライバシー保護を厳重に図りながら、ネットワークに参加している医療機関の電子カルテを相互に参照できる仕組みを構築します。これにより、他の医療機関にて得られた患者さまの詳細な診療情報を元に治療法を検討し、患者さまにわかりやすく説明を行い、質の高い安全な診療の提供を可能にすることを目的としています。

患者さまのメリット

ネットワークに接続している医療機関の受診時の状況や治療歴の情報が活用できることにより、治療の経過やその効果などについて、分かりやすく説明を受けることができます。また、薬の重複投与の防止、MRIなどの画像データや検査データが施設間で共有されることによる重複検査の防止により、安全で質の高い診療を受けることが可能になります。またおしどりネットを利用するに当たって料金が発生することはありません。



医療機関のメリット

患者さまの他の医療機関での検査データや画像データ、診断結果や治療内容が把握できるため、患者さまに正確に説明することができるようになります。そのため、患者さまとの信頼関係をよりいっそう深めることが可能になります。